

日本整形外科学スポーツ医学会 ニュースレター

No.21 2022年4月15日発行

■ 理事長挨拶



2021年6月16日に開催された理事会で理事長に再任いただきました。大変光栄に存じますとともに責任の重さを痛感致しております。

伝統ある日本整形外科学スポーツ医学会（JOSSM）の理事長という大任を拝命し、大

変光栄に存じますとともに、新たなスポーツ医学会の設立に向け JOSSM の会員皆様と一緒に新学会の方向性を見極める必要性があり、責任の重さを痛感致しております。この重要なターニングポイントを乗り切るため、副理事長として、総務担当は西良浩一先生、財務担当は田中康仁先生に継続してお願いし、役員、代議員、会員の皆様と一緒に万全の態勢で臨む所存ですので、よろしくお願いたします。

新スポーツ医学会の設立に向けて、現状をご報告します。総会での基本方針を基に設立準備委員会で、次の項目について検討しています。新学会の設立を2023年に目指す。スポーツ医学（特に整形外科学分野を中心）を議論する学会を新設する。JOSSM の事業は引き継ぎ、JOSKAS の事業のスポーツ医学に関することは引き継ぐ。会員に関しては、JOSSM 会員とスポーツ医学に関わっている JOSKAS 会員ならびにスポーツ医学に興味のある医師等を会員とする。学会名称や会期などを検討しています。また、将来の新たなスポーツ医学会の設立ということでこれまで JOSSM に貢献してこられた若手・中堅スポーツドクターで構成される設立準備委員会定款 WG で定款の検討を行っています。

1972年に AOSSM が設立され、本邦では JOSSM の前身である整形外科学スポーツ医学研究会が1975年に設立され、記念すべき第1回学術集会在市川宣

宮崎大学医学部整形外科学教室 帖佐 悦男

恭会長のもと開催されました。1986年には日整会の認定スポーツ医が誕生し、日整会と連携してスポーツ医学の発展、スポーツ外傷・障害対策に貢献してきました。1987年に現在の日本整形外科学スポーツ医学会（JOSSM）と名称を変更し、AOSSM や KOSSM 等のカウンターパートとして、合同会議や traveling fellowship 等を行ってまいりました。本年6月には岩崎倫政会長のもと第48回学術集会在開催され、長年にわたり本邦のスポーツ医学の発展に貢献してまいりました。

今後、会員の皆様と一緒に、事業の推進とスポーツ専門の医学会としての役割をより鮮明にし、学会の活性化やスポーツドクターを含めた subspeciality への対応も重要な課題であり、これまで以上に AOSSM、KOSSM、GOTS 等を含めたスポーツ医学会や医師以外のメディカルスタッフとの連携の推進が必要不可欠と考えています。

新たなスポーツ医学会は、本学会が果たしてきた役割を引き継ぎ、メディカルスタッフ、多職種、指導者などにより一層連携することでスポーツ医学の発展につながると考えております。また、トップアスリートだけではなくスポーツ愛好家や市民、障がい者スポーツに関わる方に対し運動器を中心に関与し、トータルに評価・指導できるスポーツ医の育成にも学会全体で取り組み、スポーツドクターのみならずメディカルスタッフの育成や市民への幅広い啓発活動も必要不可欠と思います。

上述しましたことを実行するためにも、教育・研究・臨床を通して運動器の観点から多面的にスポーツ医学について発表および議論する場として、また会員相互の親睦のためにも学会は大変重要であり、その使命もあると考えております。

浅学非才の身ではございますが、本学会の伝統を継承し、新スポーツ医学会の設立に貢献できますよう誠心誠意努力する所存です。どうかご指導ご鞭撻の程、よろしくお願申し上げます。

■ 第 47 回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会 (JOSSM) 報告

第 47 回日本整形外科学スポーツ医学会 会長 稲垣 克記

昭和大学医学部整形外科学講座

第 47 回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会 (JOSSM) は、2021 年 6 月 17 日～19 日に、第 12 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) (会長 出家正隆 愛知医科大学整形外科学講座主任教授) との合同学会として、札幌コンベンションセンターを中継基地として Web 開催で学会を執り行いました。

学会中は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、第 3 波による緊急事態宣言下での開催となりました。実行委員でもぎりぎりまで、現地開催、ハイブリット形式での開催を検討しましたが、現地での開催を諦め、Web 開催となりました (図 1, 2)。ただ、

参加登録は最終的に 2187 名となり (医師：1700 名、初期研修医：6 名、メディカルスタッフ：386 名、学部学生 8 名、その他 87 名)、多くの皆様にご参加いただき、無事に会を終えることができました事を、皆様方に心より御礼申し上げます。

今回の学会テーマとして出家教授と『Breakthrough and Evolution』を掲げさせて頂きました。企画に当たっては、JOSKAS・JOSSM それぞれの学会の特徴をなくさないように配慮しながらできるだけ若い世代への活躍の場となるように心がけ、愛知医大の教室の先生方と何度も会議を重ねました。JOSKAS における学会の国際化においてはオンラ



図 1 JOSKAS JOSSMS 2022 ポスター



図2 札幌コンベンションセンター中継基地



図3 JOSKAS JOSSMS 2022 開催校 集合写真

インで可能な限り参加をお願いしましたが、スポーツ大会や全員懇親会に関しては中止になったのは大変残念でした。JOSSM は学会の特徴である、スポーツの現場での医師と理学療法士やトレーナーとのディスカッション、特にスポーツ損傷の保存治療からリハビリテーション、スポーツ復帰、そして障害の予防まで概ね十分なディスカッションができたのではないかと思います。20のシンポジウムと8つのパネルディスカッションを企画し、一般口演も59のセッションを数え、多くの若手整形外科医だけでなく、医療スタッフにも学会活動の活躍の場を

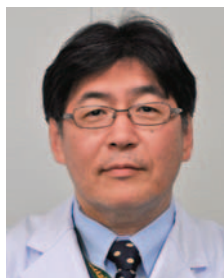
提供できたと思います。各会場は対面形式ではありませんでしたが、オンラインで熱い議論がありました。

今回、我々と合同で開催のためにご尽力いただいた JOSKAS 出家会長はじめ愛知医大の先生方、本当にありがとうございました。ALL WEB 開催となり関係各位そして会員の皆様には多々ご不便・ご心配をお掛けしたかと思いますが、この場をお借りして深謝いたします。

■ 第48回日本整形外科スポーツ医学会学術集会の開催にあたって

第48回日本整形外科スポーツ医学会 会長 岩崎 倫政

北海道大学大学院医学研究院専門医学系部門機能再生医学分野整形外科学教室



この度、2022年6月16日～18日の3日間にわたり、札幌コンベンションセンターにおいて第48回日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）学術集会を開催させていただきます。北海道大学整形外科学教室としては、初めての開催であり、教室および同門会

員一同、たいへん光栄に存じております。

皆様にはすでにお知らせしているとおり、本学術集会は第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）とJOSKAS-JOSSM 2022という形の合同開催となります。さらに、第19回JOSSM-KOSSM（韓国整形外科スポーツ医学会）combined meetingが併催されます。会長の遠山晴一先生（北海道大学大学院保健科学研究院リハビリテーション科学分野）とも話し合い、JOSKAS-JOSSM 2022のテーマは、『Spread Your Wings -飛翔-』とさせていただきます。これは、JOSKASとJOSSMの両学会が共に発展的变化を経て、今後に飛躍してほしいという思いを表したものです。両学会は共に、医師、理学療法士、トレーナーなど多職種の方から構成される大きな学術団体ですが、それぞれが長い歴史と特徴を有しております。今回、合同開催となることで各学会単独では解決困難であった臨床や基礎研究での課題に対し、活発な討論ができる場にしたいと考えております。

今回のプログラム企画時においては、新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見通せない状況でした。そのため、海外からのゲストスピーカーの数は、例年と比較して少なくさせていただきました。基調講演を北海道大学総長の寶金清博先生、文化講演を野球日本代表「侍ジャパン」監督の栗山英樹氏にお願いしております。特別講演として4演題、招待講演として2演題、教育研修講演は26のテーマを予定しています。今回はcombined meetingということもあり、14のシンポジウムと12のパネルディスカッションを用意し、幅広くテーマを取り上げました。これにより、両学会の会員の皆様が積極的に討論に参加していただけることを願っています。また、学会の未来を担う若手世代のために特別セッションとして「学生と若手医師が語るスポーツ整形外科」を組み込みました。これまで、多くの先達のご努力、ご尽力により本邦の整形外科学及び運動器科学領域にお

けるスポーツ医学が発展してきました。今後、さらなる発展を遂げていくためにも、参加者の皆様には活発なご討論をしていただければと願っております。また、若手医師の方々に対しては温かいご助言とご指導をいただき、自信と活力を与えていただければと存じます。

一般演題に関しては、約1100題の応募がございました。長期にわたる新型コロナウイルス感染症拡大の影響による応募演題数の減少を心配していましたが、このように多くの演題を応募していただき、厚く御礼申し上げます。感染拡大による診療や研究活動の制限がある中で、活動を維持し、演題応募に繋がる成果を挙げてきた会員の皆様に心より敬意を表します。会場の都合上、ポスター発表になる演題もございますが、それぞれの成果が参加された方々にしっかりと伝わり、充実した討論がなされるように準備いたします。

6月の札幌は過ごしやすく、1年を通して最も良いシーズンです。新型コロナウイルス感染症の状況は、まだ予断を許さないものではありませんが、現地開催を主体として準備を進めております。多くの皆様方にご参加していただき、活発なディスカッションを通じて、会員の皆様の学術的向上に貢献できる有意義な学会にしたいと考えております。

最後になりますが、プログラムの企画立案、演題査読等にご協力いただいた会員の皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



■ 副理事長挨拶

西良 浩一

徳島大学医学部運動機能外科学

この度、副理事長に再任致しました。昭和63年に整形外科医師となって最初に入った学会がJOSSMです。恩師・井形高明教授よりスポーツ医学専門に命を受けました。当初は野球肘の臨床研究と骨格筋エネルギー代謝の基礎研究が課題となりました。卒後7年目、私の人生の転換期となりました。井形教授の発案で、私が脊椎スポーツドクターに配置換えとなったのです。最初のプロジェクトが発育期腰椎分離症でした。このように、私は医師となった後から現在までスポーツドクターとしてJOSSMと歩んで来ました。

今JOSSMは変革期に来ております。JOSKASのスポーツ専門の先生方と新しい学会を生み出そうとしているのです。私は副理事長として、その将来構想合同会議に参画し、現在は、新しいスポーツ医学

会の定款策定会議のアドバイザーを務め、未来に繋がる取り組みを若手のスポーツドクターとともに草案しております。大変重要で責任の重い、しかしながらとてもワクワクする思いで会議に臨んでおります。



JOSSMとしては絶対にひいてはいけない所、例えば学会の歴史を継続させる所、あるいはJOSKASの要請により引くべき所など、未来志向で討論を重ねてまいります。JOSSMが今後さらに未来に飛躍する、そして世界を牽引するスポーツ医学会へと進化・発展することに尽力していく所存です。

田中 康仁

奈良県立医科大学整形外科学教室

伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の副理事長（財務担当）に再任していただき、大変光栄に存じております。財務委員会では橋本健史先生と安田稔人先生に委員をお願いいたしております。多くの先生方のご努力で会員数が増え、財政的に改善傾向にあります。無駄な出費を抑えることで、より安定したものになりたいと考えております。現在JOSKASとの学会合併のお話が進んでおります。本会はスポーツに関する医学的な議論をする場として特化した学会ですが、この方針はそのままに、合併することにより更に多くの先生方にご参加いただけるようになれば、本会が今までにも増して発展することは間違いのないと思います。

現在コロナ禍で、医療提供体制確保の観点から、

不急の手術は延期するように依頼されている施設も多いと思います。そのような状況下でも会員の皆様におかれましては工夫をしていただき、アスリートのために日々診療に励まれているものと拝察いたしております。その一つ一つがわが国の整形外科におけるスポーツ医学の発展につながっているものと確信しております。よりよい学会になることができますよう、私も誠心誠意努力する所存でございます。皆様の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



■ 理事挨拶

この度、伝統ある日本整形外科学スポーツ医学会の理事を拝命することとなりました。半世紀にわたり日本のスポーツ医学をリードしてきた本学会ですが、2023年には日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）の一部と統合し、新たなスポーツ医学会として生まれ変わる予定です。そのような大切な時期に、会の要職を務めさせていただく事は大変光栄であると共に、身の引き締まる思いでもあります。理事としては倫理・利益相反委員会を担当させていただきますが、どうぞよろしくお願い致します。

昨年はコロナ禍の中ではありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが無事開催され、本会所属の整形外科医も多方面で活躍しました。多くの国民の注目がスポーツやスポーツ医学に集まったと思

いますが、スポーツ医学は日進月歩です。日本整形外科学スポーツ医学会の目的は、スポーツ医学に関わるものが一堂に会し“整形外科学及び運動器科学領域におけるスポーツ医学の進歩普及に貢献すること”、さらに“スポーツ外傷・障害の予防と治療等に寄与すること”にあります。今後新たな学会へと移行しますが、その目的を失わず、さらに若手整形外科医にとって魅力のある学会になるよう微力ながら努力していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



石橋 恭之

弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座



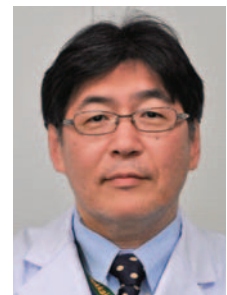
岩崎 倫政

北海道大学大学院医学研究院専門医学系部門機能再生医学分野整形外科学教室

この度、日本整形外科学スポーツ医学会の理事を拝命いたしました。引き続き編集委員会担当理事を務めさせていただきます。3期目ではありますが、改めてその重責を痛感しております。今後も微力ではありますが、これまで以上に本学会の発展に尽力する所存であります。

東京ならび到北京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツ医学は社会的にも注目されております。同時に、新型コロナ禍での新たなスポーツ医学のあり方も問われています。このような状況で、本学会が果たす役割はこれまで以上に重要になるものと考えます。そのためにも、本学会のさらなる活性化を実現させていく必要があります。この活性化において重要な役割を担うのが、日本整形外科学スポーツ医学会誌の充実であります。こ

れまでの担当理事や編集委員会の先生方の多大なご尽力により、本学会誌は学術的に充実したものになっております。これからはオンライン化の本格稼働に伴い、論文投稿ならびに査読システムの簡便化とプロセスの短縮化が実現します。会員の皆様方の労力（投稿および査読等）を少しでも軽減し、アクセプトまでの時間を短縮することで投稿論文数を増やし、さらに充実した学会誌を発刊していく所存であります。学会員の皆様からのご支援、ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。



奥脇 透

国立スポーツ科学センターメディカルセンター

前回に引き続き、本学会の理事を拝命し、また「教育研修委員会」も継続して担当させていただくことになりました。一言、ご挨拶させていただきます。

ご存知のように、ここ2年は新型コロナウイルスの感染拡大に振り回され、対面での学術集会の開催もままならない状況でした。一昨年12月に、石橋会長（弘前大学）の元、神戸でJOSKASとの合同で行われた第46回の学術集会が遠い昔のように感じられます。また対面にて皆さんと盛り上がる学術集会ができることを切に希望します。

さて、「教育研修委員会」の現状ですが、やはりコロナ禍で活動が制限されております。まずスポーツ医学セミナーについては、第20回を横浜市立大学、また第21回を順天堂大学の先生方に、それぞれ開催していただくことは決まっています。しか

し、第20回が今年開催できるかどうか未定です。また日本臨床スポーツ医学会と進めている「スポーツ医学研修制度」についても、見通しが立たない状況です。それでも「教育研修委員会」として何ができるのか、委員の皆さんと模索しています。

さらに2023年に設立予定である新スポーツ医学会（名称未定）についても、まだまだ多くの課題が残されています。整形外科専門医として、またチームドクターとして、日本整形外科学会認定スポーツドクターの在り方を、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



尾崎 敏文

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科整形外科学

このたび日本整形外科スポーツ医学会の理事に再任させていただくことになりました。本学会会員の皆様にこの紙面をお借りしましてご挨拶を申し上げます。また、社会保険委員会を引き続き担当しておりますのでよろしくお願い致します。

コロナ禍ではありましたが東京オリンピック・パラリンピックが盛会にて終了し、北京冬季オリンピック2022も多く感動を残して終了したところです。選手のスポーツ損傷を防ぐため、さらにトラブルが起きた場合には適切に対応を行いスポーツ活動に復帰させるために、また競技能力の向上など、スポーツ選手を支える医療従事者の役割が非常に大切です。現在、私は岡山県スポーツ協会の理事を委嘱されており、教室員もJリーグチームや実業団陸

上部などのチームドクターとしてスポーツ活動をサポートしています。また、県の国体選抜チームなどの帯同、市民およびスポーツ指導者を対象とした講演活動などを行っています。このようなスポーツ活動の支援を続けながら、スポーツ損傷の予防と治療に関する研究を行い選手の競技能力向上に貢献するとともに学会の発展にも寄与したく存じます。

微力ではございますが、皆様のご指導を賜りながら、本学会の運営に関わって参りたい所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



熊井 司

早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学部

このたび、日本整形外科学会スポーツ医学会の理事を拝命することになり、大変光栄に存じております。2015年～2019年に続き2度目の理事就任となり、改めてその重責を痛感致しております。

前回の理事就任時には、ガイドライン策定委員会担当として帖佐悦男委員長の多大なるご尽力のもと日本整形外科学会と連携した「アキレス腱断裂診療ガイドライン2019（改訂第2版）」を完成させることができました。委員の先生方の不断の努力の賜物であり、心より感謝いたしております。現在、日常診療でのアキレス腱断裂診療において、最新のエビデンスによる診療指針として多くの整形外科医に活用されていることを大変嬉しく思っております。また2013年以来、現在も国際委員会（2013年～2015年委員長、2016年～委員）でのJOSSM-USA、GOTSトラベリングフェローの派遣・受け入れや

JOSSM/KOSSM 共催学会のサポートに携わっています。国際感覚を持った多くの若手学会員が活躍する姿を大変頼もしく感じております。さらに2019年からは今後の学会の方向性を検討する将来構想委員会、昨年からはスポーツ学会設立準備委員会のメンバーとしても活動させていただいております。



浅学非才の身ではございますが、他の理事の先生方のご指導を賜りながら本学会の伝統を継承しつつ更なる発展に貢献できるよう努力する所存です。どうかご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



黒田 良祐

神戸大学大学院医学研究科整形外科学

このたび引き続き日本整形外科学会スポーツ医学会の理事を拝命し、大変光栄に存じます。私は今まで国際委員会担当理事として本学会に貢献してまいりました。残念ながら、ここ2年は新型コロナウイルス感染症蔓延のために海外への医師派遣や海外からの医師受け入れが全くできませんでした。それでも学会として国際交流は非常に重要な要素であると考えております。現在、国際学会はほとんどがWeb開催ですが、コロナ禍の収束とともに再びGOTS (German-Austrian-Swiss Society for Orthopaedic Traumatologic Sports Medicine) やAOSSM (American Orthopaedic Society for Sports Medicine) への医師派遣、受け入れを再開し、AOSSM、GOTS、KOSSM (Korean Orthopaedic Society for Sports

Medicine) との相互関係を更に強化し、これまで以上に密な交流を目指し、本学会の国際化に貢献して参りたいと考えております。私自身は臨床において膝関節外科を専門とし、膝関節バイオメカニクスや再生医療に関する基礎研究も行っております。さらに関西に本拠地をおくプロや学生スポーツチームのチームドクターを務め、地域のスポーツ振興に貢献しております。新たなフェーズを迎える本学会に微力ながら尽力致す所存でございます。学会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



菅谷 啓之

東京スポーツ&整形外科クリニック

このたび日本整形外科学会スポーツ医学会の理事を再度拝命し、大変光栄に存じますとともに責任の重さを痛感致しております。本学会には1993年に入会して以来、スポーツ選手の肩関節・肘関節障害の治療を自分のライフワークと定め、本学会と深く関わらせて頂いてまいりました。一期目二期目の理事(2013年から2017年)では国際委員会担当理事として、別府諸兄アドバイザー、熊井司委員長に多大なるサポートを受けながら何とか4年間無事に勤めることができました。2017年からは、黒田良祐担当理事の元、国際委員長を2年間務めさせて頂き、2020からは再度理事に就任させて頂き、理事でありながら国際委員長を引き続いて務めさせて頂いております。国際委員会の役割は、毎年の行事であるJOSSM USA トラベリングフェローの派遣とAOSSMとの関係強化、GOTS トラベリングフェローの派遣および受け入れ、JOSSM/KOSSM 共催学会のサポートが3本柱となっておりますが、2020年以降の思

いもかけぬコロナ禍により、トラベリングフェローの派遣と受け入れが完全にストップした状態になっております。2022年以降には、以前のような国際交流が可能になることを切に望んでおります。国際交流が正常化した暁には、以前にも増して本学会の歴史と伝統を踏まえて、globalな視野を持った若手学会員の育成に特に重点を置いて頑張っていく所存です。また、理事長副理事長を中心とする総務委員会のメンバーとしても活動させて頂いておりますが、学会再編の渦中でもあり、本学会の方向性を決める極めて重要な委員会があります。浅学非才の身ではございますが、本学会の伝統を継承しつつ益々発展できますよう誠心誠意努力する所存ですので、どうかご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



出家 正隆

広島市立広島市民病院整形外科

日本整形外科学会スポーツ医学会の理事を拝命いたし大変光栄に存じます。来年の新学会設立に向けてスムーズに移行できるよう、全力を尽くしたいと思っております。本学会の委員会では定款等検討委員会を担当しておりますのでよろしくお願い致します。2021年東京オリンピック・パラリンピック、本年の北京オリンピックなどにより、スポーツへの関心、スポーツ医学への関心が集まり、注目度も高まっています。そのような中、本学会および新学会の果たす役割・期待は益々膨らむばかりです。ご存じのように本学会は、スポーツに関する整形疾患を主なターゲットにした会です。アスリートのみならず生涯スポーツを楽しむ高齢者などスポーツを愛好する患者さんも対象とし、運動器障害に対する医療の発展に

我々整形外科医が貢献する中、その中心に本学会があるものと感じてきました。本学会は、整形外科医を中心としてスポーツ医学にかかわる会員が運動器スポーツ医学に関する既存および新しい検査、診断、治療などを検討・討論し、優れた研究成果を国内外へ向けて発信することだと思っております。本会の矜持が、次に受け継がれ、さらに充実した学会への発展ができるように、その方向性が明確にできるように微力ですが最善を尽くしていく所存です。何卒、会員の皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



中川 泰彰

日本バプテスト病院整形外科

この度、伝統ある日本整形外科学会スポーツ医学会の理事に2期目として、就任させていただきました国立病院機構京都医療センター整形外科の中川泰彰です。広報委員会を担当させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

私は京都大学医学部の学生時代からスポーツ医学に興味を持ち、医師になった比較的早期に本学会に入会させていただきました。当時、京都大学整形外科では、まだスポーツ医学分野が確立しておらず、本学会に参加し、色々と沢山のことを学ばせていただきました。大変感謝している学会です。

2年前の理事就任記に、「昨今本学会がJOSKASに吸収合併されそうな流れが起こり始めています。ここ数年社員総会を始め、色々な会議で問題提起させていただきましたが、この流れの理念がどこからも聞こえてこず、また、進行状況が密室で行われているように思われて仕方ありませんでした。スポーツ医学を大変愛する会員として、このまま黙って見過ごすことが罪悪であると思われ、この度本学会の理事に立候補させていただきました、就任させていただきました次第です。」と記載させていただきました。それから2年間、将来構想委員会や、スポーツ学会設立

準備委員会の委員をさせていただき、何とか、良いスポーツ整形外科学会になるよう、務めさせていただいております。今回の新スポーツ医学会設立の最大の目的は、現在2つあるスポーツ整形外科の学会（JOSKASとJOSSM）を



1つにまとめることです。そこに、JOSKASから膝が抜けて、新膝学会を設立することが重なったということです。決して、新膝学会を設立したくて、JOSKASから膝が抜けて、残ったAとSをJOSSMと一緒にしようということではありません。この方針で、お話しをさせていただいておりますが、色々な意見があって、まだ着地点が決まっております。この辺りが、まだ十分情報公開できない点が、心苦しいところです。

しかし、本学会の将来のことを十分に考え、極力情報公開していくことを目指して、頑張っていく所存です。学会員の皆様方には、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

仁木 久照

聖マリアンナ医科大学整形外科学

この度、伝統ある日本整形外科学会スポーツ医学会の理事に就任させていただきました。2期目となります。また引き続きガイドライン策定委員会を担当することになりました。本学会の会員の皆様にご場をお借りして、再任のご挨拶を申し上げたいと思います。2020年の東京オリパラは一年延期され、2021年7～8月にCOVIDまん延のなか無観客にて開催されました。いろいろな意見があるなかで強行されましたが、いざ始まってみればアスリートの活躍に感動したことが昨日のように思い出されます。そして2022年、冬季北京オリンピックが無観客で開催され、同様に日本人選手の異次元の活躍にまたも感動しました。無観客で開催された両オリンピックで

すが、スポーツのもつ素晴らしさ、意義について改めて考え直すきっかけになりました。また、それらのイベントは「スポーツ医学の進歩普及に貢献する」という本学会の目的を遂行していく絶好の機会となったことと思います。



大変微力ではございますが、帖佐理事長をお支えすべく与えられた職責を全うし、皆様とともに本学会の目標に向かって進んでまいる所存です。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

橋口 宏

医療社団法人健整会米倉脊椎・関節病院

2017年伝統ある日本整形外科学会スポーツ医学会理事の末席に加えて戴き、この度3期目を務めさせて頂くことになりました。

昨年夏と今年冬のオリンピック・パラリンピックを多くの方がご覧になり、競技前後に選手とコーチが寄り添う姿を何度も目にしたことと存じます。ご存知の通り、選手はコーチと二人三脚で練習し、競技能力を高め、試合に臨んでいるのではなく、コンディショニングやメディカルチェックを行うトレーナー・理学療法士、食事管理のための栄養士、メンタル面を支える心理カウンセラーなどに加え、障害の予防や治療を行う医師・看護師で構成されるチームが支えています。

スポーツ選手の診療においても、医師が単独で治療に当たっていることはなく、リハビリスタッフ、放射線技師、看護師、薬剤師など多職種で診断・治

療を行っております。医師の視点だけではなく、多職種による多方向の視点から選手を見るチームを作ることが重要となります。

本学会にも医師以外の方の参加は不可欠なものであります。多くの職種の方が本学会に参加され、スポーツ医学を発展させるためのチームの一員となって戴きたいと思っております。

3期日も引き続きメンバーシップ委員会を担当させていただきます。適切な資格審査を行いながらも、スポーツ医学を志し学ぶ意欲のある方々に入会して戴き、学会員増加のために尽力していく所存です。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



舟崎 裕記

東京慈恵会医科大学スポーツ・ウェルネスクリニック

この度、日本整形外科学会スポーツ医学会の理事を拝命し、身に余る光栄とともにその重責を痛感しております。今期も前任期に引き続き、学術検討委員会を担当させていただきます。本委員会では、研究助成の審査、優秀論文の選考、日本整形外科学会学術総会のシンポジウム提案などを中心に業務を行ってまいります。Covid19のパンデミック流行の中、昨年は東京オリ、パラリンピック、さらに本年は北京冬季オリ、パラリンピックがさまざまな準備、対策のもとに開催されました。なにかと暗い話の中、このようなスポーツのノンフィクションドラマが少なからず勇気や希望を与えてくれたように、いまやスポーツは必要不可欠な文化になっているともいえます。この2年間はスポーツに携わるものにとって、

感染症対策という新たな課題への対応も求められました。今後は、スポーツ界がモデルとなって感染症と共存しながら日常のスポーツ活動を行っていくことが求められ、スポーツ整形外科医を中心とする本学会の果たすべき役割は

益々多大になると考えます。今後も学術、研究活動を通じてその成果を吟味し、本学会がイニシアチブをとってスポーツ傷害の治療、予防に対する体系を構築していくことが重要と考えております。甚だ微力ではございますが、本学会の発展のため鋭意努力する所存です。何卒よろしくようお願い申し上げます。



■ 監事挨拶

この度、日本整形外科学会スポーツ医学会の監事を拝命いたしました昭和大学医学部整形外科の稲垣克記です。私は2021年に本学会の第47回学術大会をJOSKASとの合同会議として開催させていただき、また、日本整形外科学会ではスポーツ担当の理事を2年間させていただきました。さらに、運動器の健康・日本協会では成長期のスポーツ障害の理事を成長期のスポーツ障害予防啓発事業担当として仰せつかっており、これらの成果は日本整形外科学会だけでなくBone and Joint Decadeを提唱したWHOから高い評価を得ております。本学会は黎明期から提

唱したこれらの軸となる学会であります。これからは今まで私が経験いたしました事を基盤に監事として、今までに行なってきた素晴らしい事業の継承と、JOSSM会員とスポーツ医学に興味のある会員に実りある前進する学会になるよう本学会に貢献いたしたいと考えております。何卒、よろしくご理解とご協力の程お願い申し上げます。



稲垣 克記

昭和大学医学部整形外科学講座



日本整形外科学会スポーツ医学会会員の皆様に紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。私は平成25年から29年まで二期4年、理事を務めさせて頂き、すこしお休みを頂いた後、令和2年から監事を務めております。今回は二期目の監事就任となります。

本学会は医師、コメディカル、スポーツ科学者など多職種がスポーツ障害の予防、競技能力の向上、リクレーションスポーツによる健康増進に対して様々なエビデンスを世に報告して参りました。昨年は夏期東京オリンピック、今年は冬季北京オリンピックと四年に一度のスポーツの祭典が2年連続で開催され、厳しい練習のもとに到達したアスリートの素晴らしい競技能力を見ることが出来ました。本学会の知見がこうした世界トップレベルの競技スポーツ達成の一助をなしたものと拝察致しま

す。またこのような知見は、より多くの方々が楽しむリクレーションスポーツによる健康増進、障害予防にもつながって参ります。ニコニコペースのリクレーションスポーツは心身の健康維持にとっても有効です。私自身もそろそろ高齢者の仲間に入ってきました。若い頃と違って体のあちこちが痛むようになってきたのですが、下手なゴルフも楽しみながら続けて行きたいと思っております。



柴田 陽三

福岡大学筑紫病院

末筆になりますが、伝統ある本学会の一層の発展のために微力ながら尽力して参りたいと存じます。

お知らせ

1. 会員マイページについて

本学会では会員マイページを設置しています。会員の皆様にもご自身の登録情報をご確認・ご変更いただけますのでご利用ください。学会ホームページよりログインいただけます。

※ ID/パスワードが不明の場合は生年月日を添えて事務局までお問合せ下さい。

2. 学会誌オンラインジャーナルとバックナンバー

2020年発行の第40巻より、J-STAGEにオンラインジャーナルを公開しています。

また、会員専用ページでは第1巻から最新号までバックナンバーをご覧いただけますのであわせてご利用ください。

※ ID/パスワードが不明の場合は生年月日を添えて事務局までお問合せ下さい。

3. スポーツ損傷シリーズ

スポーツ損傷シリーズは、本学会監修の患者・関係者説明用パンフレットとして、現在、No.32まで制作しています。

学会ホームページにてPDFファイルの保存および印刷が可能ですのでご利用ください。

なお、本シリーズ掲載の記事・写真・イラスト等を使用する場合は、必ず学会事務局に申請してください。

4. American Journal of Sports Medicine (AJSM) の購読について

本学会の会員は、American Journal of Sports Medicine (AJSM：年12冊発行)を特別優待価格で購読することができます。

AJSM購読、オンライン購読のいずれかにお申込みいただければ、1972年の創刊号以降の全刊行物にアクセスが可能です。

特別優待価格での購読を希望される会員の方は、会員マイページの会員メニュー：AJSM購読申込をご参照のうえ、各自で購入手続きを進めてください。

	一般価格	特別優待価格
AJSM購読	\$ 250.-	\$ 136.-
オンライン購読	一般向けサービスなし	\$ 40.-

5. 会員登録情報の変更、メールアドレスの登録について

勤務先、自宅、メールアドレスに変更がありましたら、お早めに会員マイページにログインいただき、ご変更手続きをお願いいたします。ご変更がない場合、事務局からのご案内がお手元に届かないことがありますのでご了承ください。

また、日々のご連絡の他、学会情報や演題登録のご案内など、一斉メールを活用して事務局からのご案内をお送りいたしますので、メールアドレスをご登録いただけていない方は、会員マイページにてご登録いただけますようお願いいたします。

※ URL をクリックいただくと HP に移ります。

【学会 HP】 <http://www.jossm.or.jp/> 【スポーツ損傷シリーズ】 <http://www.jossm.or.jp/series/index.html>

編集後記

スポーツイベントの頂点の一つであるオリンピック（五輪）は“平和の祭典”と呼ばれる。フランスの教育者であるクーベルタン伯爵が、“スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する”ことをその目標に掲げた。しかし今、ロシアのウクライナ侵攻が止まらない。そして世界は緊迫の一途をたどっている。

かつて冷戦のさなかにモスクワやロサンゼルス五輪でボイコット問題が生じた。そして新型コロナウイルス感染症により東京五輪が1年延期になり、多くのスポーツイベントが開催中止に追い込まれた。平和に寄与するはずのスポーツが、戦争や社会問題により一番影響を受けるという事実を、我々は認識させられた。

スポーツには人々を熱狂させる力がある。感情を爆発させる歓喜や、胸が熱くなるような感動を人々に与えるイベントが、スポーツ以外に他にいくつあるだろうか。沢山の人が一つになり応援する一体感や、試合後に対戦相手に敬意を持ち、熱戦を称えあう清々しさは、人生を豊かにする貴重な時間であろう。

スポーツは社会から必要とされ、愛されている。運動器を医学的に議論し、トップアスリートの競技力向上からスポーツ愛好家の健康活動まで医学的に貢献を志す本学会の意義は極めて高い。2023年に新設されるスポーツ医学を議論する新学会が、さらに躍進を遂げるよう、学会員皆で切磋琢磨していきたい。そしてとにかく、平和を祈る。（田崎篤）

日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレター No. 21 2022年4月15日発行

編集：日本整形外科スポーツ医学会広報委員会

中川 泰彰（担当理事）、高橋 敏明（委員長）

新井 祐志、田崎 篤、辰村 正紀、藤井 康成、安田 稔人

発行：一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5

オンワードパークビルディング 株式会社コングレ内

TEL 03-3510-3744 / FAX 03-3510-3748

E-mail info@jossm.or.jp URL <http://jossm.or.jp>